

保育者養成校における地域連携活動 —地域ボランティア実践の教育的効果—

中村 真緒

本研究の目的は、保育者に必要な資質・能力の1つである「連携・協働」する力の育成について検討・考察することである。近年の保育専門職は、保護者、家庭、地域との連携や協働することが求められ、保育者間だけでなく、保護者や地域等と連携・協働していく必要がある。これらは、専門職として質向上のために必要不可欠な力であり、保育者養成校として取り組むべき重要項目である。そこで、本学独自の科目「地域ボランティア実践」における実践的な活動について調査した。その結果、子どもとのかかわりや、他者と連携・協働することについては、活動後にポジティブな変化がみられ、授業内だけでは学ぶことができない人間関係力が培われていることが示唆された。今後は保育者養成校として、1年次から実践経験を重ね「連携・協働」することの大切さを実感するとともに、2年間という限られた時間の中で実践的な経験を重ねていくカリキュラムの在り方を検討していきたい。

I. はじめに

国が求める人づくりの観点では、2006年に経済産業省が提唱した「人生100年時代」と「第4次産業革命」をもとに提唱した社会人基礎力がある（経済産業省、2006）。社会人基礎力とは、3つの能力と12の能力要素で構成され、その能力の1つが「チームで働く力」であり、これは協調性だけでなく、多様な人々とのつながりや協働を生み出す力とし、その上に専門スキルがあるものと示している（図1・2）。同じく、保育者として必要な資質・能力の中に、「連携・協働」する力がある。「連携」とは、互いに連絡を取り協力して物事を行うことであり、「協働」とは、同じ目的のために、対等の立場で協働して共に働くことである（デジタル大辞泉）。現在、日本は少子化にもかかわらず、子どもを取り巻く状況は多様・複雑化しており、昨今改定（改訂）された保育所保育指針・幼稚園教育要領等（文部科学省、2017；厚生労働省、2017）においても、保護者、家庭、地域との連携や協働を重視することが求められ、保育者間、保護者、地域等と連携・協働していく必要があると示している。

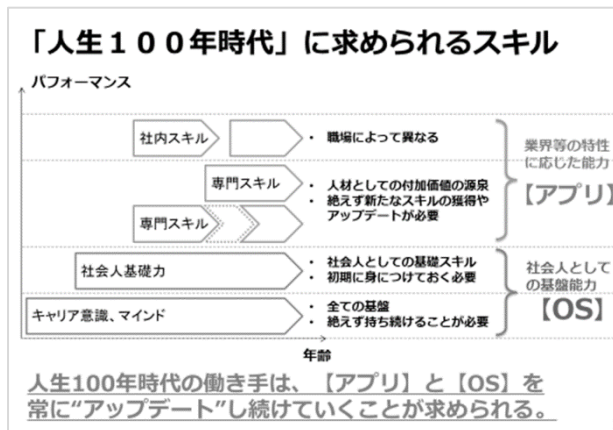


図 1. 「人生 100 年時代」に求められるスキル

出所) 経済産業省 HP

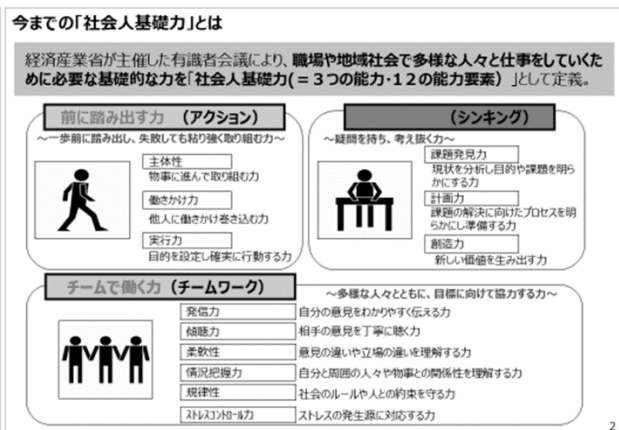


図 2. 「社会人基礎力」 チームで働く力

出所) 経済産業省 HP

保育現場では、複数担任制や園内での情報共有など、保育者同士が一緒に仕事をする場合が多く、同僚間での連携が重要となる。しかし、早期離職の要因として、最も高い数値を示す項目は、「職場の人間関係」であることの報告があり（厚生労働省，2020；木曾，2018），職務上の人間関係に困難を抱えやすく早期離職の問題が懸念されることから、保育者養成校での教育において、早期に学生の人間関係力の育成が求められる。

短期大学は、地域の身近な高等教育機関として高等教育機会の確保など重要な役割を果たしている（文科省，2021）。2021年度は、全国に公立 14 校、私立 303 校、合計 317 校の短期大学が設置されており、99,416 人の学生が在籍している（文科省統計，2021）。全国の短期大学で様々な分野の教育が行われているが、幼稚園教諭や保育士は地域の専門的職業人として、養成の面で重要な役割を担っている。現在、三重県内の保育者養成校は 5 校（大学 2 校、短期大学 3 校）で、ユマニテク短期大学は四日市の地で保育者養成に力を注いでいる。

ユマニテク短期大学幼児保育学科（以下、本学）は、「生まれ育った地域で学び、地域に貢献できる人材を育てたい」という強い思いから、地域ニーズに応えられる幼児教育に関わる専門職業人を育成するため、2017 年に開学し 6 年目となる。本学の建学の精神「地域を支える次世代を社会に送り出す」ことを目指し、「豊かな人間性と確かな技術」を兼ね備えた保育者を育てることを教育理念としている。乳幼児期の専門知識・教養と保育技能を修得し、コミュニケーション能力を身に付けた、人間性豊かな保育者の育成を目標としている。本学 1 年次の必修科目である「地域ボランティア実践」では、地域の児童館や社会福祉協議会等と連携し、学外講師を招いた講義や地域連携活動を行っている。子どもと触れ合うイベント活動や清掃活動を通して、地域との繋がりを感じながら実践力やコミュニケーション力等を身に付ける機会としている。短期大学の特色は、2 年間で大学としての教養教育やそれを基礎とした専門教育を提供する点であることが示されており（文科省，2021），本講義は実習前の早期の段階で実践活動や様々な年齢層の方々と交流を経験する

機会として、非常に重要な位置付けであると考え、保育学生として、地域連携の重要性を学びながら保育技術を用いて実践活動を行うことには、どのような教育的意義や効果があるのか、このことを把握することは、保育者養成校のカリキュラムや学生生活の在り方を様々な視点から考える機会となり得る。

そこで本研究では、1年次の必修科目である「地域ボランティア実践」において、地域連携活動を通して育まれる力やそれぞれの活動前後の変化を調査し、その教育的効果と保育者養成校としての課題やてだてを明らかにすることを目的とした。

II. 演習内容

今年度は、7月と11月の計2回にわたり実践的な活動を行った（表1）。目的意識なく参加をすることのないよう、保育者としての意識を持ち地域住民と交流することの意義や他者との連携・協働する力を育むため、活動前の導入として「保育者としての資質・能力について」講義し理解を深めた。15回の講義を通して、地域の関係者と交流のできる場に向け、学生が主体となり「企画」「運営」「実践」の流れに沿って活動し、連携・協働して取り組むことのできるような内容とした（表2）。それぞれの活動に向けて、学生自身が主体となり取り組むことで、現場で必要となる保育を展開する力を育むことを目指した。さらに、事後の振り返りとしてグループ発表を行い、感想や反省点の記録などを授業用ノートとして配布したカルテの作成に取り組み、実践活動の学習をより深めた。

表 1. 実践した活動の一覧

回	月日	活動	活動内容
1	7月3日	児童館祭り	スライム（23名）
			ストロー紙飛行機（23名）
			バスボム（26名）
2	11月12日	大学祭	スライム（15名）
			スーパーボールすくい（16名）
			カラフルペットちゃん（38名）

表 2. 「地域ボランティア実践」の授業計画

回	月日	授業計画	活動内容
1	4月8日	オリエンテーション	カルテ記入の説明
2	4月22日	計画	企画：出し物の発案、決定、グループ分け
3	5月13日	ボランティアについて	ボランティアの基礎知識、保育者と地域連携活動
4	5月27日	作業・準備①	出し物に必要な材料、役割分担
5	6月1日	児童館まつり説明	児童館と活動について
6	6月17日	作業・準備②	製作、教材研究
7	7月1日	作業・準備③	最終確認、事前アンケート①
8	7月3日	実践①：児童館まつり	
9	7月8日	振り返り	事後アンケート①
10	9月30日	大学祭について	企画：出し物の発案、決定、グループ分け
11	10月7日	計画	出し物に必要な材料、役割分担
12	10月14日	作業・準備①	製作、教材研究
13	11月4日	作業・準備②	製作、教材研究
14	11月11日	作業・準備③	設営、飾りつけ、最終確認、事前アンケート②
	11月12日	実践②：大学祭	
15	11月18日	振り返り	事後アンケート②

A. 児童館まつり

「じどうかんまつり 2022」は、四日市市内の児童館 4 施設・こども子育て交流プラザ 1 施設が合同主催の、工作・あそび体験やマジックショーを行うイベントである。対象者は、地域に居住する子育て家庭で、乳幼児から児童と大人までの幅広い年齢層が参加した。今年度は科学をテーマとしており、本学からは「スライム」「ストロー紙飛行機」「バスボム」の 3 ブースで製作・遊び体験コーナーを運営し、作り方の説明や来場者の対応まで全てを学生中心で行った。3 ブースでは、子どもの発達段階や安全性さらに、コロナ対策を視野に入れた内容で検討を行った。当日は午前・午後の 2 回の実施とし、計 300 名の来場者数となった。

B. 大学祭

「地域の方々との交流」を目的の 1 つとし、3 年越しの「ユマ短祭」を開催した。「地域ボランティア実践」を履修している 1 年生は、児童館まつりの経験を活かし「スライム」

「スーパーボールすくい」「カラフルペットちゃん」の3ブースを企画し、学生中心で運営を行った。対象者は、地域に居住する幅広い年齢層の方々に、日頃から繋がり深い保育施設や小学校への広報活動を行い、計796名の来場者数となった。

Ⅲ. 研究方法

1. 調査対象

対象授業科目名：「地域ボランティア実践」

対象者：ユマニテク短期大学幼児保育学科1年次（「地域ボランティア実践」の受講生）前期72名、後期69名とした。体調不良などの理由により実践活動を欠席した場合、その回の調査は対象外とした。また、アンケートは実践前後に1回ずつ行ったため、前後計2回の回答を満了した者のみを対象とした。

2. 調査時期

2022年度（2022年4月から11月）各回の実践活動前後にアンケート調査を行った。その際、アンケートについての説明を行い、1週間ほど回答期間を設けた。

3. 調査方法

インターネットサービスのGoogleフォームを用い、Web形式でのアンケート調査を行った。

4. 調査内容と分析

アンケートの質問項目は、2件法と4件法の選択式による「ボランティアの経験」「実践前後における印象の変化（子どもや連携・協働について）」と、記述式による「保育者としての資質・能力」「地域とのかかわり」「今後の展望」の計5項目とした。分析方法として、各回答の割合（%）を算出し、実践前後の比較を行った。

5. 倫理的配慮

対象者には、本研究の目的と方法、個人情報の守秘義務等についての十分な説明を行い、研究参加に対する承諾を得た者のみ回答するよう説明を行なった。回答内容は、授業評価には全く反映されないことの確認も行った。研究への協力は本人の自由意思であり、同意が得られたと判断した場合のみ、回答の受付を行った。

Ⅳ. 結果および考察

1. ボランティア経験の有無

大学入学前におけるボランティア経験の有無について尋ねたところ、「ある」と回答した

学生は 59 名中 42 名（71.2%）となり，多くの学生は経験をしていた．ボランティアの種類は，その他，子ども関係，障害・福祉関係の順に多く，その他の内容については，地域清掃や植林，環境系のボランティアを経験している者が複数名みられた．一方で 17 名（28.8%）はボランティアの経験が「ない」と回答した（図 3）．

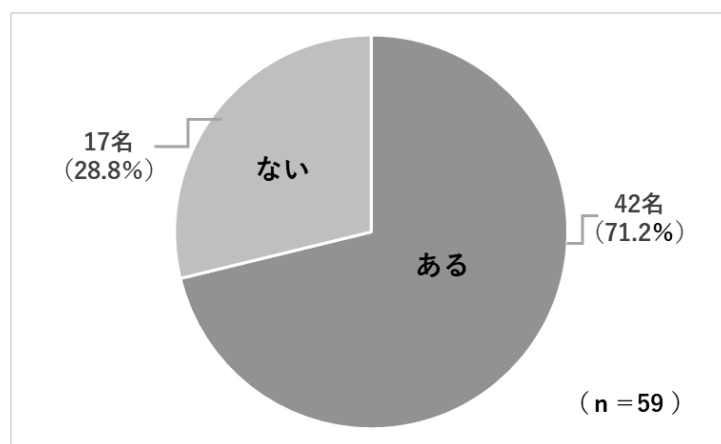


図 3. ボランティア経験の有無について

2. 実践前後における印象の変化

2-1. 子ども好きについて

A. 児童館まつり（回収率 82%）

子どもに対する印象について尋ねたところ，児童館まつりの活動前は「とても好き」が 51 名（86.4%），「やや好き」が 8 名（13.6%），「やや嫌い」「とても嫌い」とともに 0 名（0%）であったのに対し，活動後には，「とても好き」が 48 名（81.4%），「やや好き」が 11 名（18.6%），「やや嫌い」「とても嫌い」とともに 0 名（0%）となった（図 4・5）．

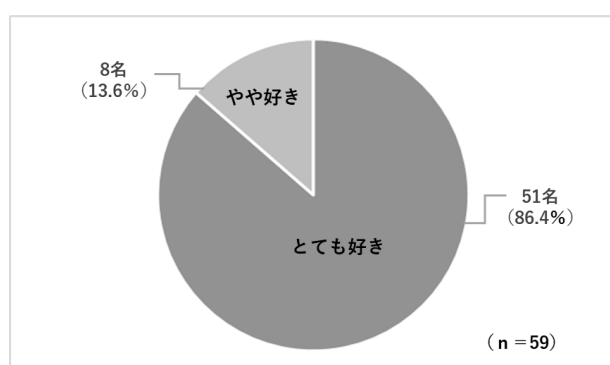


図 4. 活動前の子どもに対する印象

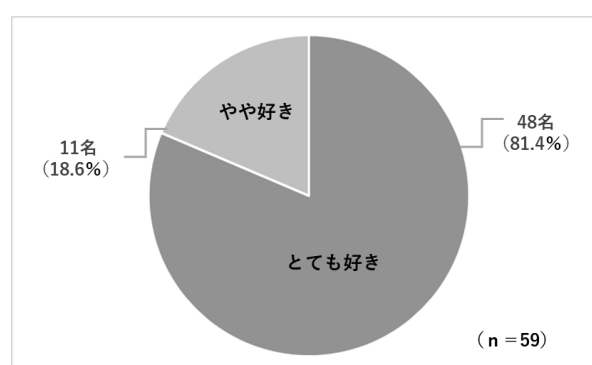


図 5. 活動後の子どもに対する印象

B. 大学祭（回収率 90%）

子どもに対する印象について尋ねたところ，大学祭の活動前は「とても好き」が 57 名（91.9%），「やや好き」が 4 名（6.5%），「やや嫌い」が 1 名（1.6%），「とても嫌い」が

0名(0%)であったのに対し、実践後には、「とても好き」が51名(82.3%),「やや好き」が10名(16.1%),「やや嫌い」が1名(1.6%)「とても嫌い」が0名(0%)となった(図6・7)。

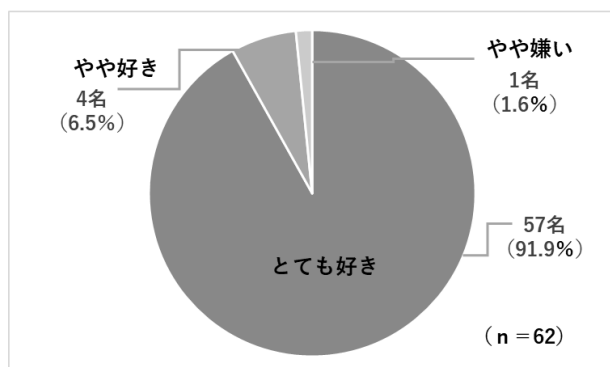


図 6. 活動前の子どもに対する印象

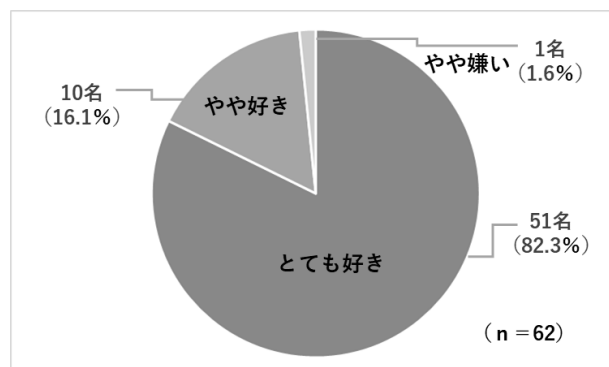


図 7. 活動後の子どもに対する印象

以上の結果から、活動前と活動後には、大きな変化は見られなかった。しかし、「やや嫌い」の割合に変化のない点と、活動後には「とても好き」が減り「やや好き」が増えた2点が検討課題となった。記述式アンケート内では、「子どもとのかかわり方が難しい」と活動を通してネガティブな印象を持っていた。コミュニケーションが苦手と感じる学生への配慮や授業内容の工夫の必要性を感じた。

2-2. 子どもとのかかわりについて

A. 児童館まつり（回収率 82%）

子どもとのかかわりについて尋ねたところ、児童館まつりの活動前は「ややうまい」が46名(78%),「とてもうまい」が8名(13.6%),「ややへた」3名(5.1%)「とてもへた」2名(3.4%)であったのに対し、活動後には、「ややうまい」が48名(81.5%),「とてもうまい」が8名(13.6%),「ややへた」3名(5.1%),「とてもへた」が0名(0%)となった(図8・9)。

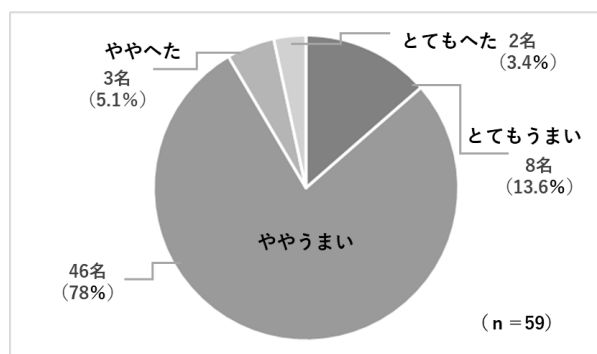


図 8. 活動前の子どもとのかかわり

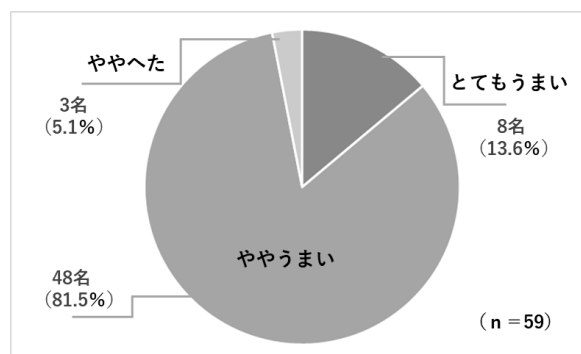


図 9. 活動後の子どもとのかかわり

B. 大学祭（回収率 90%）

子どもとのかかわりについて尋ねたところ、大学祭の活動前は「ややうまい」が 46 名（74.2%）、「とてもうまい」が 8 名（12.9%）、「ややへた」が 8 名（12.9%）、「とてもへた」が 0 名（0%）であったのに対し、活動後には、「ややうまい」が 48 名（77.4%）、「とてもうまい」が 14 名（22.6%）となった（図 10・11）。

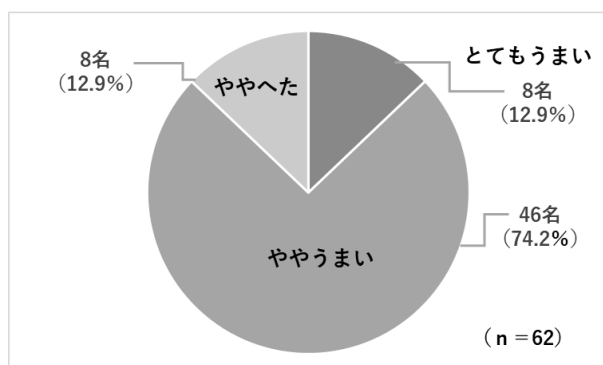


図 10. 活動前の子どもとのかかわり

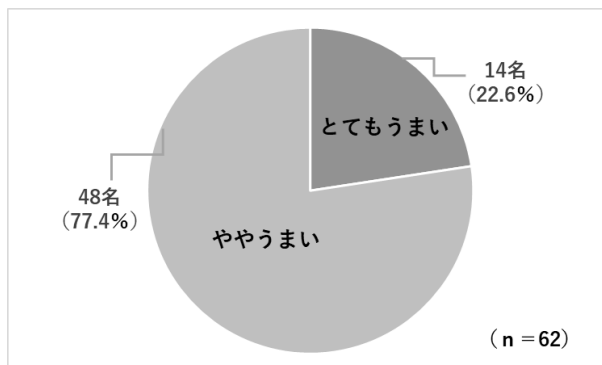


図 11. 活動後の子どもとのかかわり

以上の結果から、活動前に比べ活動後には、「とてもうまい」と「ややうまい」の割合が高くなった。さらに、1 回目の活動では「とてもへた」が 0 名となり、2 回目の活動では「ややへた」「とてもへた」ともに 0 名となった。学生は、活動を重ねることで子どもとのかかわりに対して自信が湧き、ポジティブな意識を持てるようになることがわかった。

2-3. 連携・協働について

A. 児童館まつり（回収率 82%）

他者との連携・協働について尋ねたところ、児童館まつりの活動前は「ややうまい」が 33 名（55.9%）、「ややへた」が 16 名（27.1%）、「とてもうまい」が 7 名（11.9%）、「とてもへた」が 3 名（5.1%）であったのに対し、活動後には、「ややうまい」が 38 名（64.4%）、「とてもうまい」が 17 名（28.8%）、「ややへた」が 4 名（6.8%）となった（図 12・13）。

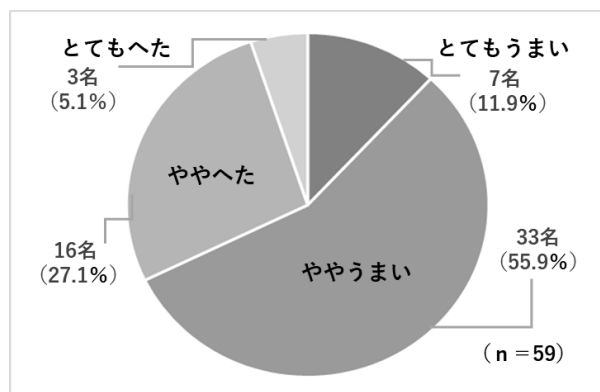


図 12. 活動前の連携・協働について

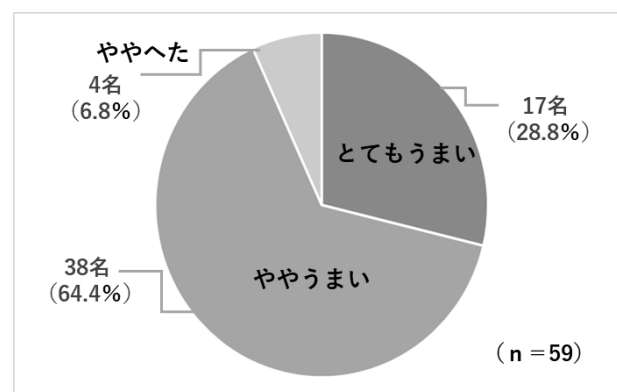


図 13. 活動後の連携・協働について

B. 大学祭（回収率 90%）

他者との連携・協働について尋ねたところ、大学祭の活動前は「ややうまい」が 39 名（62.9%）,「ややへた」15 名（24.2%）,「とてもうまい」7 名（11.3%）,「とてもへた」が 1 名（1.6%）であったのに対し、活動後には、「ややうまい」が 47 名（75.8%）,「とてもうまい」が 13 名（21%）,「ややへた」が 2 名（3.2%）,「とてもへた」が 0 名（0%）となった（図 14・15）。

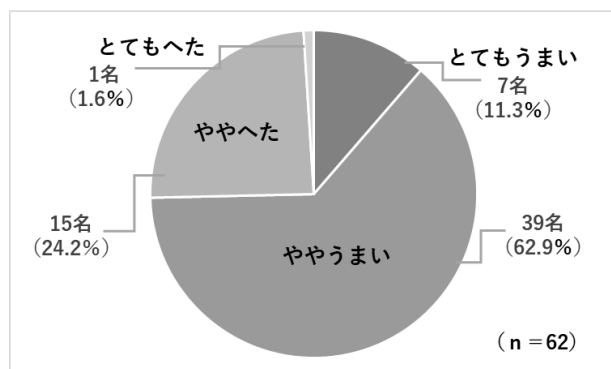


図 14. 活動前の連携・協働について

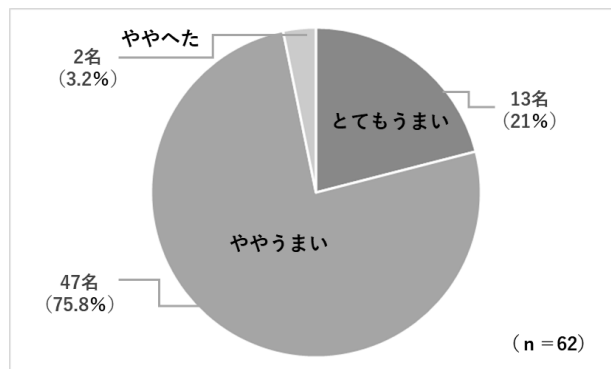


図 15. 活動後の連携・協働について

以上の結果から、活動前に比べ活動後には、「とてもうまい」と「ややうまい」の割合が高くなった。他の質問項目の中でも、連携・協働は経験を積み重ねることによって、ポジティブな変化がみられることがわかった。

2-4. 自身の変化について

自身に変化について尋ねたところ、実践後に変化を感じた学生は 62 名中 37 名（59.7%）で、変化を感じなかった学生は 25 名（40.3%）となった。具体的な変化の内容として、「人とのかかわりに自信が持てた」「積極的になることができた」「リーダーシップをとることができるようになった」との意見が多くみられた。

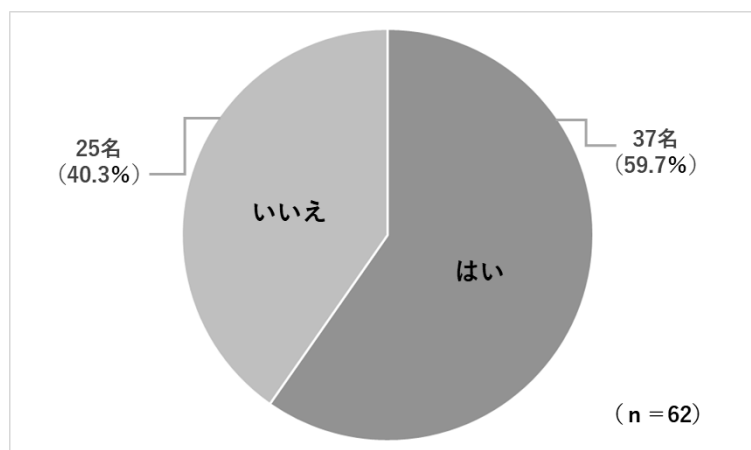


図 16. 活動後の自身の変化

3. 活動を通した学びや今後の展望

以下の3点について、記述式で回答を求めた。

- ① ボランティア活動の経験から、保育者として身に付いた力がありますか。
- ② 活動を通して、地域とのかかわりから何を学びましたか。
- ③ 今後に向けて、どのような経験を積みたいと思いますか。

質問から、一部の回答を項目別にまとめた（表3）。

3-1. 保育者として身に付いた力

ボランティア活動の経験から、保育者として身に付いた力への回答からは、「コミュニケーション能力」と「連携・協働」に対する記述が多くみられた。特に「コミュニケーション能力」については、子どもだけでなく保護者とのかかわりについての記述があり、学内や実習では経験できない、家庭との関係を学ぶことができた（表3）。

3-2. 地域とのかかわりから学んだこと

地域とのかかわりから学んだことについての回答からは、地域連携の重要性だけでなく、地域の「優しさ」「あたたかさ」「助け合い」等、ポジティブな印象を持った回答が多くみられた（表3）。

3-3. 今後の展望について

今後に向けて、どのような経験を積みたいかへの回答からは、実習や就職に向けた記述が多くみられ、ポジティブな気持ちで将来に向き合おうとする姿がみられた（表3）。

表 3. 活動を通じた学びと今後の展望について

保育者として身に付いた力	地域とのかかわりから学んだこと	今後の展望
<u>コミュニケーション能力</u> ・保護者、子ども達とのコミュニケーション能力を高めることに繋がったと思いました。 ・自ら声をかける大切さを身につけられたと思います。 ・保護者と関わる力や保育者と協力する力。 ・子どもたちや保護者の方々とのコミュニケーションのとり方を学べたと思います。 ・コミュニケーション能力や子どもに対しての言葉の選び、声かけなど。 ・子どもだけでなく、保護者とのコミュニケーションもとれた。 …など	<u>地域との繋がり</u> ・学校と地域のつながりがより深くなったと感じた。 ・地域との連携の重要性を感じた。 ・地域と連携して情報共有、共通理解をすること。 ・地域と繋がることで、助けあったりできること。 ・地域との関わりを大事にしていこうと思えた。 ・地域の方と関わる温かさを学びました。 ・こういった活動は地域の人ありきで成り立っていることが分かった。 ・沢山の方と関わりと地域の優しさにふれることができました。 ・地域の人たちの笑顔を見て嬉しいと感じること。 …など	<u>実習について</u> ・実習では積極的子どもと関わりにいたり、保育者とも積極的にお話したりして、人との関わり方や大人との関わり方を学びたいです。 ・実習で複数の子どもに話しかけられて誰に返せばいいかわからない時があったので、経験を積みたいと思いました。 ・学んだことを実習や就職先でも使って行けるようにこれからもボランティアに力を入れていきたいと思いました。 <u>ボランティアについて</u> ・色んなボランティアやイベントに参加をして色んな人と関われるようにしたいです。 ・ボランティアに参加するなど子どもたちと積極的に関わりたいです。 ・子育てに対する講演会に参加したり、ボランティア活動を意識的に参加していきたいと思いました。 …など
<u>連携・協働する力</u> ・みんなと連携して目的を達成することにつながったと思う。 ・協力することの大切さ。 ・みんなと協力する力、連携をとる力。 ・仲間と協力しあってひとつのことに取り組む力がつきました。 ・みんなと連携して目的を達成することにつながったと思う。 …など		

V. まとめ

近年、出生率の低下に伴う少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化、さらに女性の社会進出による共働き家庭の増加等、様々な社会状況の影響は子育て環境にも様々な変化をもたらしている。そのため、保護者は子育てに対する不安や孤独感を抱く者も少なくなく、保育専門職として求められる責務は非常に大きい。保育の需要は高まっているものの、保育専門職はストレスを受けやすく、要因の多くは職場の人間関係であり（齊木ほか、2008）、新人はストレス耐性力が低く、より負担を感じやすい（上村、2011）。保育者同士だけでなく、保護者とのコミュニケーションがうまくいかない要因として、保育者自体ス

キルが低いことも指摘されている(丸目, 2014). さらに, 就職する以前の大学生活においても, 人間関係により悩む学生が非常に多くみられる. このように, 保育者にとって人間関係にかかわるコミュニケーション能力や連携・協働力を育むことは, 保育者養成校として将来の人材育成に非常に重要であると考え.

保育者養成校としてこれらの力を育むには, 実践を伴う活動に向けて, 学生同士で主体的に作り上げる保育経験や, 子どもだけでなく保護者と接する機会の必要性を大いに感じた. 現在もなお続く, コロナウイルス感染症拡大により, 対面によるイベント等の制限など, 保育実践を行う上で未だ難しい状況が続いている. 今後は保育者養成校として, 1 年次の早い段階から外部活動や実践経験を通して「連携・協働」することの大切さを実感するとともに, 2 年間という限られた時間の中で, 様々な経験を重ねていくカリキュラムの在り方を検討していきたい.

VI. 謝辞

本研究の遂行に当たり, 研究対象としてご協力いただいたユマニテク短期大学の皆様に心から御礼申し上げます.

VII. 引用・参考文献

- 1) 上村眞生 (2011)「保育士のレジリエンスとメンタルヘルスの関連に関する研究—保育士の経験年数による検討—.」 広島大学大学院教育学研究科紀要 (60) : 249—257
- 2) 木曾陽子 (2018)「保育者の早期離職に関する研究の動向早期離職の実態, 要因, 防止策に着目して.」 社会問題研究 67 (146)
- 3) 経済産業省 HP (2006)「3 つの能力/12 の能力要素」「人生 100 年時代に求められるスキル」(閲覧年月日 2022 年 12 月 29 日)
- 4) 厚生労働省 (2018)「保育所保育指針解説書.」
- 5) 厚生労働省 (2020)「保育の現場・職業の魅力向上 検討会 (第 5 回)」
- 6) 齊木久代・中川香子 (2008) 保育職問題評価尺度作成の試み—保育職満足度, ストレス関連反応との関係—.」 保育士養成研究 26 : 77-86
- 7) 溝部ちづ子, 石井眞治, 斉藤正信, 財津信子, 道法亜梨沙, 酒井研作, 杉田郁代. (2014)「教員志望大学生の学校支援ボランティア活動の教育効果に関する研究 (2)」.比治山大学紀要
- 8) デジタル大辞泉 <https://daijisen.jp/digital> (閲覧年月日 2022 年 12 月 29 日)
- 9) 丸目真弓 (2014)「保護者支援の前提となる保育士と保護者間コミュニケーションに関する現状と課題— 保護者アンケートを中心として —」大阪総合保育大学紀要 (9) :173-194
- 10) 文部科学省 (2021) : 短期大学について (高等教育局大学振興課短期大学係).
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/tandai/index.htm(閲覧年月日 2022 年 12 月 29 日)